

番号	年月日	種別	地区名	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
1	H27.6.5	市政懇談会 (H27)	湯口	秘書政策課	地域おこし協力隊の人選について	地域おこし協力隊として花巻にくる方が、地域の文化や伝統に馴染めずに帰るケースを心配している。民間経営者に面接をしていただき、地域に定着するような方を選定して欲しい。 また、(株)花巻家守舎のように交付金を当てにしない事業者在花巻に来ていただくと、空き家の有効活用に結びついてくるので定着させたい。地域おこし協力隊は来年度と言わず、今年からでもいいのではないかと。	地域おこし協力隊については、協力隊として花巻に来ていただく方々の活動内容やお世話をする人について調整が必要なので様子をみたい。大分県竹田市には地域おこし協力隊が30人おり、今度、市の担当職員に竹田市に視察に行ってもらい、空き家だけではなく地域おこし協力隊との連携など、どのような活動をしているのか勉強してきてもらおうと考えている。 面接は、市職員のほかに例えば大迫は葡萄農家の方など基本的には一緒に仕事をする人たちの意見も聞きながら、やる気がある人を選びたいと思っている。
2	H27.6.5	市政懇談会 (H27)	湯口	農政課 農業委員会	クレー射撃場・元スケート場 周辺の草刈りについて	花巻南温泉郷玄関口のクレー射撃場、元スケート場の辺りについて、改正農地法に基づき遊休農地として草刈りを早く進めてほしい。	状況は承知している。市内に関わらずこの地域でも同様の問題が発生しており、農業委員会のパトロールのほか、農林部と農業委員会とで連携をとりながら対処したい。
3	H27.6.5	市政懇談会 (H27)	湯口	秘書政策課	交付金を有効に使うことについて	国の交付金を有効に利用して花巻の発展のために使いたいと言っているが、国からの交付金も私たちが支払っているお金である。まちづくりは、交付金を当てにして進めるのではなく、しっかりと自立した形でやらないと長続きしない。税金を有効に使って花巻の発展のために努めていただきたい。	総合戦略は、必要のないことはやらないというスタンスで計画を作るよう指示している。現在、東京はもの凄く豊かだが、地方は非常に疲弊している。交付金は国の予算で決まり、交付金を何に使うかという話である。国からの交付金は長くは続かないので、今だから使えるものは有効に使うべきと考えている。
4	H27.6.5	市政懇談会 (H27)	湯口	秘書政策課	ふるさと納税について	ふるさと納税について、花巻に寄付されるより花巻から他の自治体に寄付している人が多ければ、花巻に入るべき税金が入ってこないということも考えられるのではないかと。	今のところ、花巻から例えば北上にお金が行っているという統計はない。ほとんどは、関東のお金のあるところから地方に回っているという状況である。
5	H27.6.5	市政懇談会 (H27)	湯口	商工労政課	農業分野における起業化支援センターの活用事例について	湯口地区の製作所が起業化支援センターの支援を受け、新製品ができたという記事が載っていた。最近では農業の6次産業化が注目されているが、農業分野において起業化支援センターを活用している例はあるのか。	起業化支援センターでは6次産業化についても支援している。具体的には、矢沢地区の大粒の干し葡萄がプレミアム商品として売り上げを伸ばしているという成果がある。農業者は販路拡大など苦手な部分があるので、その場合はご相談いただきたい。 矢沢の干し葡萄はとても美味しいと、今大変有名になっている。また、大迫でエーデルワイン以外の葡萄の醸造会社を作ろうとしている方もいる。農業の6次産業化は、例えば漬物であれば市内の漬物業者と取り合いなるとも出てくると思うので、市外に売れる商品を作っていけるよう皆さんの知恵を借りたい。農林部と商工観光部とで連携して進めるのも一つの方法である。
6	H27.6.5	市政懇談会 (H27)	湯口	秘書政策課 国保医療課	人口減少対策について	今までになかった定住や子育ての支援事業に取り組んでいるようだが、花巻ならではのインパクトのある政策が足りない。増田氏の著書に高校までの医療費を無償化している例が載っていた。乳幼児の医療費を市が全額負担するようだが、全国で同じような政策を打ち出すのであれば、魅力がなくUIターンで帰ってこない。予算にメリハリをつけたインパクトのある政策がほしい。	ふるさと納税については、東京の方から寄附をいただくことはよいと思うが、県内で争うことは問題である。高校生まで医療費を無償化については相当の予算が必要となるので、慎重に考える必要がある。また、子どもの医療費助成はUIターンが目的ではなく、花巻に住んでいる子育て世帯の負担軽減が目的である。結果的にそれが魅力の一つになればよい。竹田市が空き家バンクで上手くいっている理由は、非常に丁寧に対応しているところである。インパクトはなくても、お金だけの競争をせず、一つ一つ丁寧なやり方で魅力を作っていきたい。
7	H27.6.5	市政懇談会 (H27)	湯口	商工労政課	プレミアム商品券について	プレミアム商品券はあまり賛成しない。お金だけで何とかしようという発想はしないほうがよい。	国から支給されるお金なので有効に使うべきである。産業支援だけが目的であればプレミアム商品券は全員に配布する必要はないが、一部の人が潤ってはいけないと考え、全員が使えるようにした。

■平成27年度市政懇談会記録

「内容」「懇談会での回答」は、読みやすくするため、正確さを損なわない範囲で、部分的に文章上の整理を行っています。

番号	年月日	種別	地区名	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
8	H27.6.5	市政懇談会 (H27)	湯口	契約管財課 生涯学習交流課	自主的なサークルの市バス 利用について	各振興センターを利用している市民講座で受講生が移動研修する場合、市のバスを利用できなくなった。バスは日中空いていると思うので、それを利用させていただきたい。市民に学ぶ機会を与えてほしい。	バスの運行については、緑ナンバーの営業用と白ナンバーの自家用とがある。市のバスは自家用の白ナンバーなので、市の主催事業用である。元々公民館事業であった講座が独立して自主的なサークルとなった場合、民間事業という扱いになり市のバスを使えなくなったと認識している。自主的な事業を行う場合は、民間のバス事業者からバスを借りていただくことになる。市主催事業と自主的なサークル事業とを生涯学習担当の方で切り分けたということだと思う。
9	H27.6.5	市政懇談会 (H27)	湯口	契約管財課 地域福祉課	市バスの利用時間等につ いて	民生委員の研修に市のバスを使わせてもらっている。バスの利用時間は8時半から17時まで、行先は県内のみというルールをもう少し柔軟にしてほしい。	バスの運行は8時半から17時くらいを基本的な目安として対応していると認識している。しかしながら、県外にも非常に参考になる場所があり、研修に行きたいというご意向については、基本的な運行目安を勘案しつつ、内容等を検討させていただきますので、ご相談いただきたい。
10	H27.6.5	市政懇談会 (H27)	湯口	道路課	県道の歩道延長について	県道について、渡りの橋から坂道を登った上までは歩道ができていますが、その先を郵便局まで延長していただくよう県に陳情してほしい。	県に伝える。
11	H27.6.5	市政懇談会 (H27)	湯口	生涯学習交流課 賢治まちづくり課	宮沢賢治記念館等について	宮沢賢治記念館等はイベントがある時にしか子どもたちがたくさん集まらない。イベントのない日曜日でも地域の人たちがたくさん集まるような工夫を考えてほしい。また、賢治のモニュメントがあちこちに置かれているので、番号をつけると分かりやすいのではないかと。ふるさとパスポートについても、もっと活用するよう学校に働きかけてはどうか。宮沢賢治記念館に行く場合、童話村に駐車して歩いていくことは高齢者にとって厳しい。	宮沢賢治記念館、高村光太郎記念館が4月にリニューアルオープンした。5月の連休もあり、県内外から多くの子ども連れの方に来ていただいた。イベントのない日曜日にもたくさんの子どもたちに来ていただくようにできる範囲で工夫していく必要がある。 賢治記念館は今年リニューアルしたばかりなのですぐに直すのは難しい。童話村は子どもに非常に評判が良いので今のままで様子を見て、状況によっては手を加える方法がよいと思っている。賢治のモニュメントに番号を付ける話は担当に確認する。皆さんからもアイデアをいただきたい。
1	H27.6.15	市政懇談会 (H27)	谷内	都市政策課 小中学校課	今後の公共交通施策につ いて	東和地域における市営バスの1便当たりの平均乗車人数は0.96人と聞いており、今後廃止される路線があるのではと考えている。平均乗車人数の高いデマンドタクシーによる対応になると、通学のため市営バスに混乗している小中学生が乗れなくなるということが考えられるのでスクールバス運行時間の見直しや増便などを検討していただきたい。 市営バス路線を廃止すれば人員及び車両が余剰になると思う。現在、デマンドタクシーは隔日運行となっているので、毎日運行するなど充実に図ってはどうか。 市営バス路線を残す場合、運行路線、運行時間など全面的に見直すということも考えられる。いったん路線バスを無くして仕切り直すというぐらいの大英断をもって検討していただきたい。	東和地域の公共交通は、岩手県交通による路線バス、東和町総合サービス公社による市営路線バス、東和町サービス公社と高木タクシーが運行しているデマンドタクシーの3種類で対応している。 平成26年度の市営バスの1便当たり乗車人数は0.87人の現状。乗車率の減少対策として平成22年10月から市営バス運行を朝夕に集約するとともに、平日日中の便に替えてデマンドタクシーを導入し自宅付近から指定乗降場まで運行しており、デマンドタクシーの平成26年度の1便当たり平均乗車人数は5.2人となっている。 これらの実績を踏まえながら利便性の高い公共交通となるよう地域の声を聞きながら、今年度に花巻市地域公共交通網形成計画策定を進める予定なのでご提案についてもその中で検討させていただきます。
2	H27.6.15	市政懇談会 (H27)	谷内	地域づくり課	人口減少対策と子育て支援 対策について(婚活支援)	市では婚活を支援している団体に対し結婚が成立すれば1組3万円、10組分の予算が計上されていると聞いたが物足りないのではないかと。	市内にはボランティアで婚活支援をしているNPO団体がある。そうした団体に結婚が成立したら1組3万円の補助金を交付する事業で、10組分で30万円の予算により当初スタートしているが吉報はまだない状況。NPOだけではなく高齢者の団体など対象団体の拡充を含め事業成果が上がるようにしていきたい。

番号	年月日	種別	地区名	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
3	H27.6.15	市政懇談会 (H27)	谷内	秘書政策課 国保医療課 健康づくり課 こども課	人口減少対策と子育て支援 対策について(出生率向上)	花巻市の出生率は1.42人ということで、2人以上が目標となっているようだがその対策は。	岩手県内で出生率が一番高いのは遠野市で1.8人。遠野市の担当に聞いたところ地域ぐるみで協力しあう結の習慣が残っており家庭や地域と一緒に子育てできる環境があるのではないかと伺っており、ひとつのヒントになるのではないと思う。 子供を産んで育てる支援として乳幼児医療費助成については所得制限を撤廃し自己負担なしとしたほか、こどものインフルエンザ予防接種費用の助成について、就学前のこども及び小学生第2子以降のこどもについては3千円を上限に2回の助成へと拡充した。さらに、小学生の最年長者を第1子とした第3子以降の保育料の1/2を支援する制度を新たに創設した。
4	H27.6.15	市政懇談会 (H27)	谷内	農政課 商工労政課	人口減少対策と子育て支援 対策について(就労支援)	若い人は都会志向にあり、高い給料の職場などを希望する傾向にある。企業などと一体となって若者をひきつける何かが必要ではないか。	農業については、新規就農者を受け入れた場合の農地借上料、機械資材購入、研修に係る指導謝礼等の経費に対して助成することとしており新規就農を図っていきたい。 企業誘致については、花巻市には工業団地や流通団地があるがひきあいのある花巻空港の流通業務団地は売場所がない状況にある。その他については大型機械が設置可能な地盤にないなどで分譲地が残っている。市としてはメリットのある流通業、製造業を立地可能な工業団地の候補地を調査しているが企業誘致するためには交通条件等有利な場所に造成する必要があるだろうということで検討している。
5	H27.6.15	市政懇談会 (H27)	谷内	秘書政策課	人口減少対策と子育て支援 対策について(定住支援)	他市町村から花巻市へ移住する方へどのような支援があるのか。	県外から花巻市に定住し市内企業に就職が決まった方、また、その方を雇用した企業に奨励金を支給する。子育て世帯で県外から花巻市に住居を構えて働くという方には100万円を限度として支援をする。また、空き家バンクを構築し、不動産屋を仲介して全国に情報を発信しマッチングする制度を設けた。その際に定住が決まった空き家の持ち主に奨励金を交付する制度も加えた。
6	H27.6.15	市政懇談会 (H27)	谷内	秘書政策課 農政課 地域振興課	人口減少対策と子育て支援 対策について(情報発信)	十数年前からグリーン・ツーリズムで小中学生を受け入れている。子供たちは空気がおいしい、緑がきれいと言ってくれる。私たちのような定年退職した人たちに引越してきていただけるよう里山の魅力をどんどん発信してほしい。	ココロマチという定住対策に取り組んでいる会社があり、空き家バンクの情報発信も含めアドバイスをいただきながら、花巻の魅力を発信していきたい。 グリーン・ツーリズムについて、大人でも興味のある人がいるのではないかと。また泊まるのは農家である必要はない。いろいろな手法があると思うので、東和にくる地域おこし協力隊、農林部で相談しながら検討してもらいたいと考えている。

■平成27年度市政懇談会記録

「内容」「懇談会での回答」は、読みやすくするため、正確さを損なわない範囲で、部分的に文章上の整理を行っています。

番号	年月日	種別	地区名	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
7	H27.6.15	市政懇談会 (H27)	谷内	長寿福祉課	花巻市高齢者いきいきプラン について(活動主体への支 援)	当該プランでは施策目標に介護予防の推進、住民主体の身近な通いの 場づくりという内容が掲げられ、活動の主体となる団体は自治会、町内 会等が含まれている。同様のことを当地域では「たてまちサロン」を開設 して、高齢者のいこいの場づくり、健康体操等に取り組んでいる。その運 営はボランティアにより手弁当で運営いただいているが、メンバーの高 齢化等の課題がある。活動団体への支援システムの充実が必要ではない か。	介護保険事業計画(花巻市高齢者いきいきプラン)では、介護保険料を3 年ごとに見直しをしていく。第6期の花巻市の介護保険料は、標準的な 方で月額5,500円程度であり、全国の平均並みとなっている。介護費用 の上昇を抑制し持続可能な制度とするために、介護予防の取り組みを 推進していきたい。平成29年4月から新しい総合事業ということで、介護 予防の取り組みや生活支援のサービスを地域のみなさんにも担ってい ただく制度となることから、家の掃除や食事の支度など地域の方々で できる生活支援をみなさんと話し合いをしながら決めていきたいと思っ ている。 課題の支援システムの充実については、新しい総合事業では、地域の 活動団体がサービスを提供することで、現在の介護保険サービスより安 い価格で利用でき、活動団体にサービス費用が支払われるシステムとな ることから、その手法による実施も検討していきたい。それまでのサロ ンの活動については、現行の支援をしていきたいと思っている。 平成29年4月からの新しい総合事業では、ボランティアだけでやってい ただいている部分にお金がでる仕組みとなる。どのような活動をするのか 活動の主体となる団体も含め地域で話し合っていたきたい。
8	H27.6.15	市政懇談会 (H27)	谷内	長寿福祉課	花巻市高齢者いきいきプラン について(介護予防事業への 参加促進)	介護予防ということで健康体操の推奨、健康診断受診推進のために市 民の参加を促すということが記載されているが、当地域のような農山村 地域では足がない高齢者にとっては参加が難しい状況にある。 提案だが大阪市此花区では、特定健診、がん検診、健康教室や講座に 参加していただいた方へポイントを進呈し記念品と交換している。高 齢者を送迎した方にポイントを進呈するなどを含め同様なことを花巻市 でも検討できないか。	何より介護の状態にならないで元気に暮らすための手段をみんなで考 えることが大切なので、高齢者の足の確保やポイント制も含めてみな さんと話し合いをしながら検討していきたい。
9	H27.6.15	市政懇談会 (H27)	谷内	農村林務課	シカ駆除について	有害鳥獣対策について、人口は減っているようだがシカは増えているよ うだ。新聞で遠野市では年間3千頭捕獲したと掲載されていた。罠を かけるのに補助員として農家に資格をとらせていると聞いた。 また、川の土手まで線(電線)を張り巡らしている。花巻市でもそれぐ らい真剣に取り掛かってほしい。	花巻市で平成26年度のシカの捕獲頭数は400頭(猟捕獲は不明)。今年 度から遠野市と一体的にやるという方向で岩手県とも連携体制をと ることになっている。罠も含め遠野市からいい方法を教えていただ いて対応していきたい。 罠については、罠にかかった後どのように処理しているのか調べる必 要がある。 電導柵については、設置に対して補助金を出している。昨年、補正予 算で増額したが今年も不足したら補正するので使っていたきたい。鳥 獣被害については大変な問題と認識している。
10	H27.6.15	市政懇談会 (H27)	谷内	地域づくり課 地域振興課	懇談会の開催について	今後もこのような懇談会を開催希望する。地域から要望があった際には お受け願いたい。	なるべく受けたいがこれ以上懇談会の回数を増やすのは難しい。必ず 市長に伝わるので、まずは総合支所長を呼んで話していただきたい。

番号	年月日	種別	地区名	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
1	H27.6.23	市政懇談会 (H27)	大瀬川	秘書政策課 国保医療課	人口減少対策について	大瀬川地区は、市町合併時の人口が840人であったが、9ヶ年で140人減少し700人となった。花巻市では減少対策としてどのようなことを考えているか伺いたい。	<p>市全体でそれぞれのセクションでワーキングを作り、人口減少対策に取り組んでいる。まず、婚活から始めなければいけないということで、NPO法人など公共的な団体が行う結婚活動を支援する事業に対し、成婚1件につき3万円の補助金を交付する。</p> <p>また、子育て世帯に経済的な支援ということで、首都圏から花巻に定住する子育て世帯へ100万円、県外から市内に帰ってきて就職した人へ25万円、事業主へ50万円の奨励金を交付する。</p> <p>子どもの医療費助成について、就学前の児童の医療費を無料にするなど今まで以上に力を入れている。インフルエンザについては、子ども3人以上の世帯に1回3,000円を限度に2回まで補助する。</p> <p>これから5年間の総合戦略ということで少子化対策の計画を作っていくことにしているので、皆さんからアイデアをいただきながら実効性のあるものにしていきたい。</p> <p>30代の女性で結婚していない人が増えており、婚活等で結婚する人を増やすことが大事だと思う。</p> <p>子育てしやすいように特に第3子が生まれたときに医療費や保育料などを支援することが必要であり、本来は国が支援していくべきことだと思う。</p> <p>自然減を減らすことが大事だが、社会減として大学入学とか就職で花巻を出てから帰ってこないということがある。給料が高い東京に流れていく傾向がまだ強く、盛岡市や北上市に比べると戻ってくる人が少ないので、住みやすく良い職がある花巻市を作っていかなければならないと思う。</p> <p>石鳥谷は花巻市の中では一番人口の減り方が少ない地域であり、特に駅の周辺は減っていない。石鳥谷駅前の空き地は住宅開発の動きがあり、矢巾町に医大が来ることで石鳥谷に住む人も多と思うので、石鳥谷は他の地域に比べて人口が減るのを止めやすいと思っている。市としてやれることはやっていこうと思う。</p> <p>新規就農者も呼んできて、地域が活性化するようにしたいが、雪が多い地域を嫌う人が多いので奥羽山脈のふもとは厳しいと思う。</p> <p>大瀬川の地域を守るということは、出生率を高くすることが非常に大事なので、協力して一緒にやっていきたいと思う。</p>
2	H27.6.23	市政懇談会 (H27)	大瀬川	道路課	市道葛丸線の防災対策について	旧石鳥谷町時代に、一の滝付近の山が落石の危険度が高いということで、道路を迂回する計画を立てたが、東日本大震災で葛丸川は山の崩落で人工ダムとなったこともあり、今後の取り組みを伺いたい。	<p>旧石鳥谷町において一の滝付近から約770m道路の付替えをして橋梁を施工する計画で、約3年間調査検討したが、概算事業費が約8億2千万円程でかなり負担となり、財政状況や他に優先して整備するところがあつたためこの事業を中止した経緯がある。合併後は地震、降雨時の他に定期的にパトロールを続けてきている。平成23年度には新たに落石する危険性のある箇所が発生したため擁壁を造りネットを張る対策をしている。市の土木関係予算が厳しい状況であり、今後も適時パトロールを実施し、対策を続けていきたい。</p> <p>葛丸川の山肌の崩壊については、直接葛丸線とは関係ない場所であるが、葛丸川の河川管理者の県から常時パトロールを実施し、要注意箇所を注視しながら安全確保に努めているという回答をいただいている。</p> <p>現在、花巻市では2つの橋を造っているが、15億から20億円かかり、豊沢橋については、今年1年間工事を遅らせることにした。道路にかかる予算について国に要望しており、昨年までは60%予算措置されていたが、今年は50%の予算措置となっている。全国的には減らされていないということだが、岩手県内陸の各自治体は全部減らされている。国も道路関係の予算が厳しく、なかなか事業を進めるのが難しい状況である。</p>

番号	年月日	種別	地区名	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
3	H27.6.23	市政懇談会 (H27)	大瀬川	農村林務課	農地水機能向上事業と新たな圃場整備について	農地水の組織では地域の要望により計画区域にU字管を入れているが、今後の区画整理で壊すことになればもったいないので、山王海土地改良区に問い合わせた所、5年先か10年先かわからないことなので、今までどおり進めるように指導された。農水省はどのように考えているのか。	国土交通省から水利権について、用水路と排水路が分離されていない今の状態では更新を認めないと言われており、せっかく水路を整備するのであれば区画整理までやってはどうかというのが今、土地改良区で考えている部分だと思う。 区画整理、農村整備事業については、申請事業になっており、基盤整備をやりたいという地元農家の申請を土地改良区が取りまとめして、県営事業等でやってきた経緯がある。 まず地元の気持ちをまとめて、基盤整備ができるかどうか改良区と詰めていくことが必要だと思う。
4	H27.6.23	市政懇談会 (H27)	大瀬川	農政課	農地中間管理機構について ①	中間管理機構という新しい制度をうまく利用するためには、法人化することだと聞いている。 区画整理については再検討の余地があると言われており、法人化の問題でいろいろやっているときに更にこれを合わせてやるならば大変である。どうすればよいのか。 改良区と市関係機関と話し合い、方向性を出すことが大事だと思うし、私たちがこのまま今までのような耕作関係で米作りをやるとういうような考えは捨てて、大局的に検証して進めるべきだと思う。 市長はこの農林行政をどのように考えているか伺いたい。	確かに同じ時期にするとすれば混乱はあると思う。ただ、中間管理機構のために法人化するからといって圃場整備をストップするわけにもいかないと思う。皆さんがその部分で非常に困っているとすれば、市と改良区で打ち合わせをしながら、皆さんが困らないようにし、特に法人化の手続きについては全面的に支援していくしかないと思う。
5	H27.6.23	市政懇談会 (H27)	大瀬川	市民税課 農政課	農地中間管理機構について ②	中間管理機構について、法人化の支援をするということだが、法人化した場合に法人市民税を3年間か5年間は半額にするなど、減免について検討願いたい。	市民税は市の条例であるとしても、制度上の問題がないか持ち帰って確認します。